

1998

夢あるまち かしま

を目指して

～鹿島町まちづくり委員会の記録～

発行 鹿島町まちづくり委員会
鹿 島 町

まちづくり委員会結成!!

～平成9年9月、私達のまちづくりが
始まりました。～

「まちづくり委員会」は住民主体のまちづくりを行うグループとして平成9年9月に生まれました。委員会は区長や商工会を始めとする地域および各団体の代表によって推薦された、「地域の住民30名」から構成されます。委員会は、「中心市街地の活性化」に焦点を絞りながら、鹿島町のまちづくりについて、まちの土地利用や交通体系、施設計画等のハードな部分から商店街の活性化の方策等のソフトな部分まで総合的に考え、検討し提案を行っていきました。

私達も応援します。

まちづくりの手法として最も大切なことは住民が自ら考え、判断することです。自ら判断し、決めたことは住民も責任ある立場となります。そして、自分の役割・立場への認識が高まり、継続的にまちへ関心を持ち、愛着が湧きます。このようにして作り上げられたまちづくりの構想は、一時的な施策ではなく、自ら推進力を持ったものに成長します。行政や専門家は皆様を支援する立場で後押しします。夢あるまちになるよう一緒に頑張しましょう。

平成10年3月
鹿島町長 中野 一徳



～まちの3つの大きな課題に対応する部会を設け検討を行いました。～

1. 土地利用・交通問題を考える部会

●各地区別の特性を考慮し、それぞれにふさわしい土地利用の方針や整備イメージを探ることが課題となりました。また、これらの検討には、国道6号線との関係等も含めた動線計画も含まれました。

●その中で魅力ある商店街とはどんなものか、今後どのような商業活動を続けるべきか、相馬や原町の商圏とどう関わり、独自性を出すのか、基本的な構造改変が課題となりました。

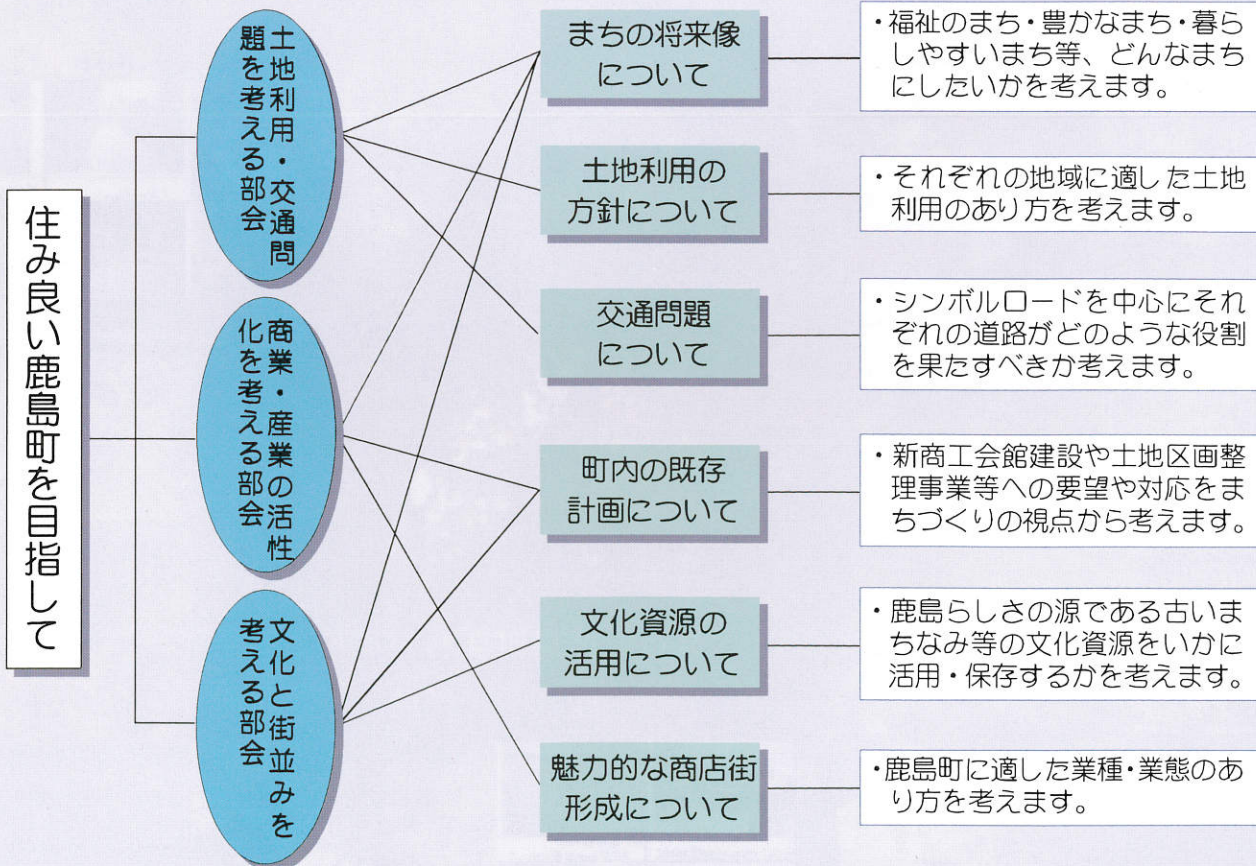
2. 商業・産業の活性化を考える部会

●町の商業は、統計データによると昭和57年度以降の小売店数、地元購買支持率の減少などの傾向が見られます。これは、町全体の人口に大きな変化がない中で、緩やかに町の商業が衰退していることを示しています。

3. 文化と街並みを考える部会

●現在の商店街には旧街道沿いの趣を残した神社や造り酒屋など歴史的な文化を示す建物や裏路地、水路等が残っています。これらを町の文化資源としてどのように保存し活用すべきかが主な課題となりました。

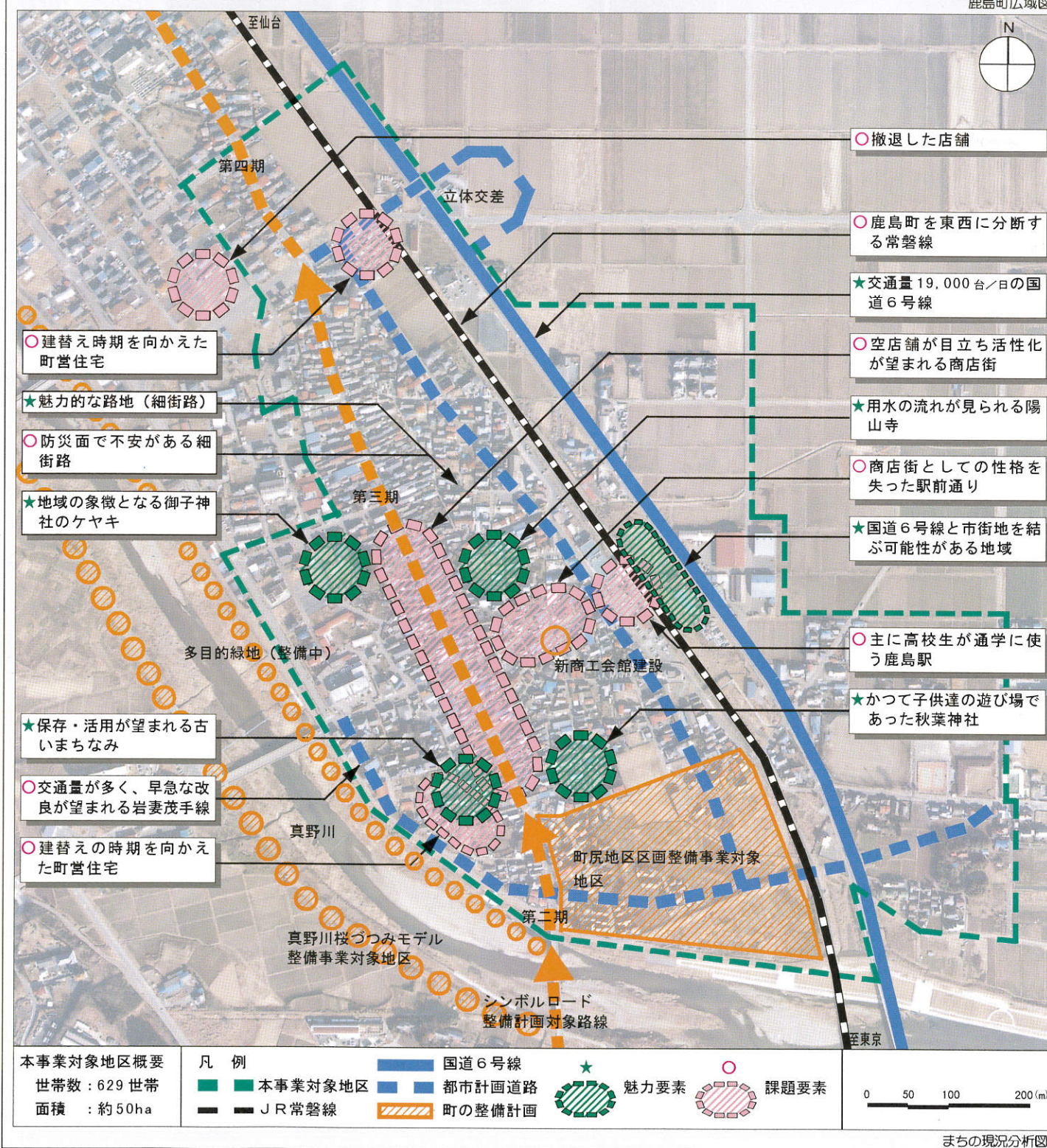
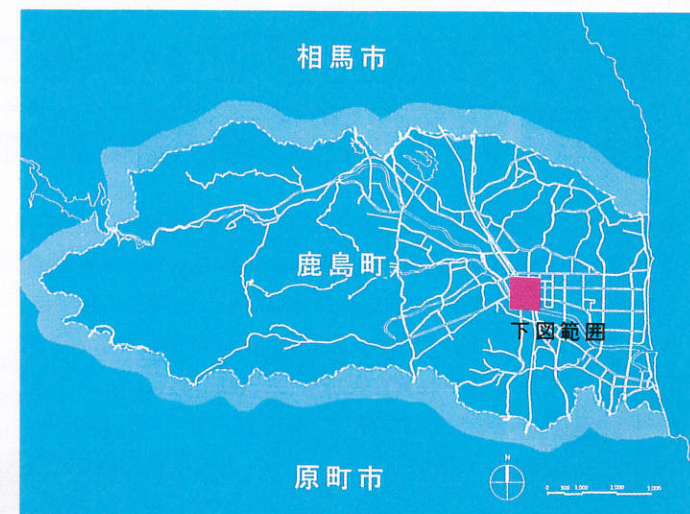
委員会の構成と検討内容



まちウォッチング調査

～まちを改めて見てみると様々な
魅力や課題が発見されます。～

委員会では、町の人口・産業・生活に関する基礎調査や中心市街地を構成する建物の建設時期や用途の状況等の現況調査を行いました。また、まちウォッチングと銘打ってそれぞれにテーマを持ち、まちの中を歩き、様々な人にインタビューを行い、まちの忘れかけていた魅力的な場所や解決すべき課題を発見・再確認しました。下の図に、これらの調査活動より明らかになったまちの魅力や課題を示します。



私の好きな鹿島町」作品コンクール

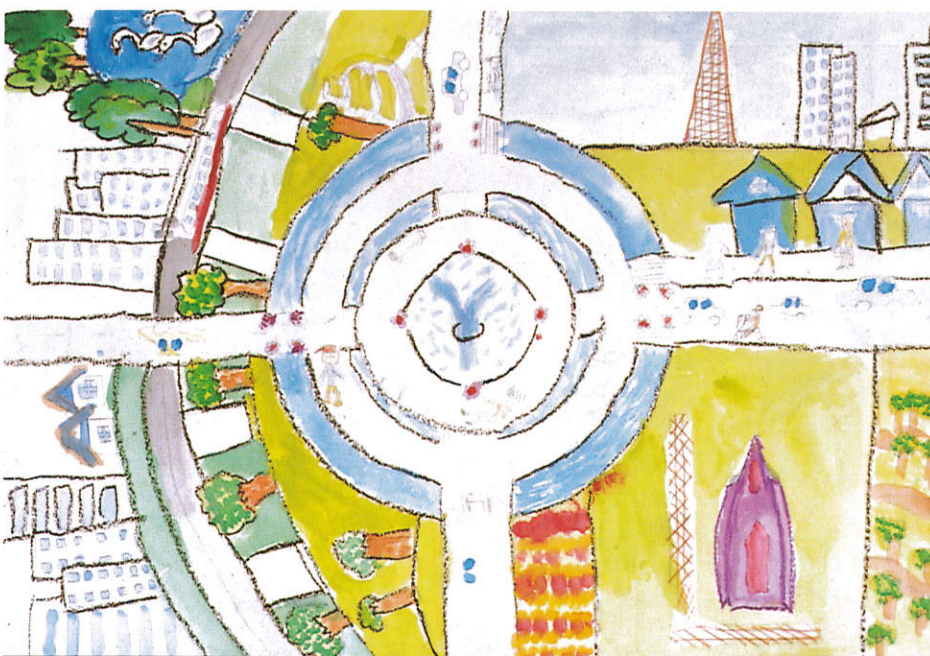
～まちづくりには子供達の夢も盛り込まれます。～

委員会では全ての町民の皆さんにまちづくりへの参加意識を持ってもらうため、「私の好きな鹿島町」作品コンクールを行いました。コンクールは小・中学生を対象に行い、小学生の部では冬休みの間に描いた「夢のまち」絵画作品が241点、中学生の部では、子供達それぞれがカメラを持ち、「鹿島町らしい」と思う風景や人・看板を思い思いに撮影し、組写真に仕上げたパネル



「中学生の部最優秀賞」加藤成美・只野祥子(鹿島中)

講評：様々な角度から、また、まちのプラス・マイナス両面の要素がきちんと見つめられ、組写真として鹿島を的確に表現しています。ムダ撮りが無く、撮りたいものだけを切り取るセンスが光っています。



「小学生の部最優秀賞」島田大幹(鹿島小)

講評：夢があり、見る人に様々なイメージを喚起させる絵です。水と道路によって構成された、ロータリーは真野川に育まれ用水の流れをまちの中心部に持つ鹿島町にふさわしい作品といえます。

作品が28点寄せられました。これらの作品は即日の審査によって各賞が選ばれました。後日には表彰式が開催され、作品は公民館等でも展示されました。委員会ではこれらの作品のアイデアや要素を分析し、委員会での検討資料とし、まちづくりの提案である「提言」や「モデルプラン」に活用しました。



作品をもとに
「町の...」
イベントの様子を伝える新聞記事
(福島民報 平成10年1月25日)

おめでとう！



表彰式の後、作品の前で記念撮影

『私の好きな鹿島町』作品コンクール 作品集 '98』も発行されました。

まちづくり視察研修

～いろいろなまちを見て、話を聞き、鹿島町について考えました。～

「まちづくりは人づくり」と言われます。まちづくりは、このまちの住民である私達次第なのです。そこで私達は、他の市町村で中心となってまちづくりを行った人達の経験や様々な情報・意見を取り入れるため3つの課題を持って視察研修を行いました。

1. 土地区画整理事業を活用したまちづくり事例

- 釜石市駅周辺地区：旧国鉄と新日鐵用地を活用した再開発が行われている。
- 花巻市中心地区：中心地区の区画整理と同時に建築協定による統一感のある外観をもつ新商店街「なはん通り」が整備されている。
- 柴波町日詰西地区：新駅誘致を核に大規模な宅地開発を行っている。

2. 橋上駅を核としたまちづくり事例

- 北茨木市磯原駅西地区：各種補助を用い橋上駅を建設し地域の活性化を図った。
- 東海村駅周辺地区：橋上駅設置と東西両地区の一体的な整備を行っている。
- 笠間市石井北部地区：地元商店と大型店が同時に入居し、共存共栄を図った新たなショッピングセンターを建設している。

3. 合築型駅と民間小規模商業集積を活用したまちづくり事例

- 塙町駅周辺地区：図書館・ギャラリー・軽食コーナーが駅と合築され、まちの新たなコミュニティの場として活用されている。
- 商業集積地区：意欲的な商店が5軒集まり「フォレスト5」という商業集積をつくった。これは、商店街のリーディングプロジェクトとして周囲に刺激と賑わいを与えている。



協定による統一感のある外観を持つ「なはん通り」



橋上化で東西を繋ぎ地域の活性化に貢献する東海駅



新たなコミュニティの場として生まれ変わった塙駅

～私達は視察研修で鹿島町についてこう考えました。～

- まちづくりは10年、20年考えるもの、目先だけで計画してはいけないうと考えました。
- 花巻駅前にある「なはんプラザ」は、色々な企画や行事を行い、利用度が高く、鹿島町もこのような拠点施設の整備による駅及び駅前の活性化が必要と考えました。
- 柴波町は、大規模な宅地開発を行い、そこに駅まで誘致した。鹿島町も大規模な宅地開発なしには、発展しないと考えました。
- 東海駅前の幅員30mの道路を視察して、鹿島町に広い道を作る場合、中央分離帯を設け、そこを休憩スペースにする等の工夫が必要だと考えました。
- フォレスト5のように数軒の商店が集まり小さな商業集積を作り、まちに活気を生み出すというのは、鹿島でも元気な人が集まって、ぜひ行いたいと考えました。

まちづくり委員会に参加して

萩原 実(土地利用・交通問題を考える部会)

委員会に参加して、あらためて鹿島町を客観的に見る事ができました。そして、今まで住んできた地域に対し、無関心だったことに気付きました。自分達の住む鹿島町をどのようにしていけば良いのか、10年、50年、100年先の鹿島町はどのようになっていくのか・・・。

委員会で話し合いを進めるうちに自分達のまちは自分達でつくっていく意識が大切なのだとわかりました。今回の報告書をたたき台にし委員会を続けなければ、本当のまちづくりにはならないと思いました。

長澤 弘子(商業・産業の活性化を考える部会)

まちづくりはそれに取り組む商店の方達の頑張りが少ないと思います。この委員会で出た多くの意見を参考に、そしてマンネリ化した各イベントを断ち切って発想の転換をして、自分の店だけの限定商品を開発して、近所そして町内・町外へと広がって、それにこの委員会が発展的に協力できたらと思います。

伊佐見 淳子(文化と街並みを考える部会)

「私の好きな鹿島町」作品コンクールに参加して今まで何気なく見過ごしてきた私のまちにも素晴らしいものがたくさんある事を感じました。まちづくりにあたり、私達一人一人が「家の中は自分のもの」、「家の外はみんなが見るみんなのもの」と言う考え方を持てば私達の家の一部もとても素晴らしいまちになると思います。

この集まりは、これからのまちづくりに私達の意見を反映させるものですので一人でも多くの人に今後参加してもらい、皆さんの住み良いまちになって欲しいと思います。



まちウォッチングの様子



委員会での検討の様子

提言によるまちづくり基本方針の提案

～私達は「住み良い鹿島町」の実現を目指し、町に意志を示します。～

委員会では各種計画への意見提示を始め様々な事柄について検討しています。この検討を通して将来の町のあり方や方向性、既存計画に対する様々な夢や希望・要望が生まれました。これ

らを、30項目をこえる「提言」と「まちづくり基本方針」としてまとめ、町に示しました。今後は更に検討を進め私達の夢の実現を目指していきます。

まちづくり提言（一部抜粋）

1. 町の将来像について

- 1). 「田舎」という言葉をキーワードにし、「未来に通用する田舎＝鹿島」を目指す。
- 2). 住む人のために、その次の世代の子供たちのために「教育の充実」を図る。
- 3). 既存の各種の産業に加え、未来を見据えた「エコロジー産業」を開発・発展させ、鹿島を新しい産業の中心点として主張できる町にして行く。

2. 商店街の活性化について

- 1). 商店街全体で共通の将来イメージや商店街のあり方を決定、個々の活動を行う。
- 2). 商店街は日々の暮らしに必要な基礎的な商品（最寄り

- 品）が徒歩圏内で揃う「近隣商店街」と位置づけ、業種構成も検討し、適正な業種・業態構成を探る。
- 3). 商店街全体を町民の公園、子供達の社会教育の場、老人の談笑の場ととらえ整備する。
- 4). 商店街全体の経営戦力に基づく一定のルール（セールの同時展開、空き店舗の活用等）をつくる。
- 5). 商店街全体の状況を判断し、必要な業態を選定し、業種転換や導入の促進を行う。特に、集客力を持つ「こだわりの店」の誘致を積極的に行う。
- 6). 商店街全体の総合的なマネジメント活動を行う主体として、専門家に対しゼネラルマネージャーとして委託を行う。

まちづくりの基本方針

「土地利用・交通問題の方針」

- 本地区の活性化の基礎要件である後背人口の増加を図る。
- 具体的には宅地開発及び町営住宅の建替えにより推進する。
- 県道浪江鹿島線（シンボルロード）は、地区の中心的なコミュニティの場ととらえ、歩車共存の街路とする。

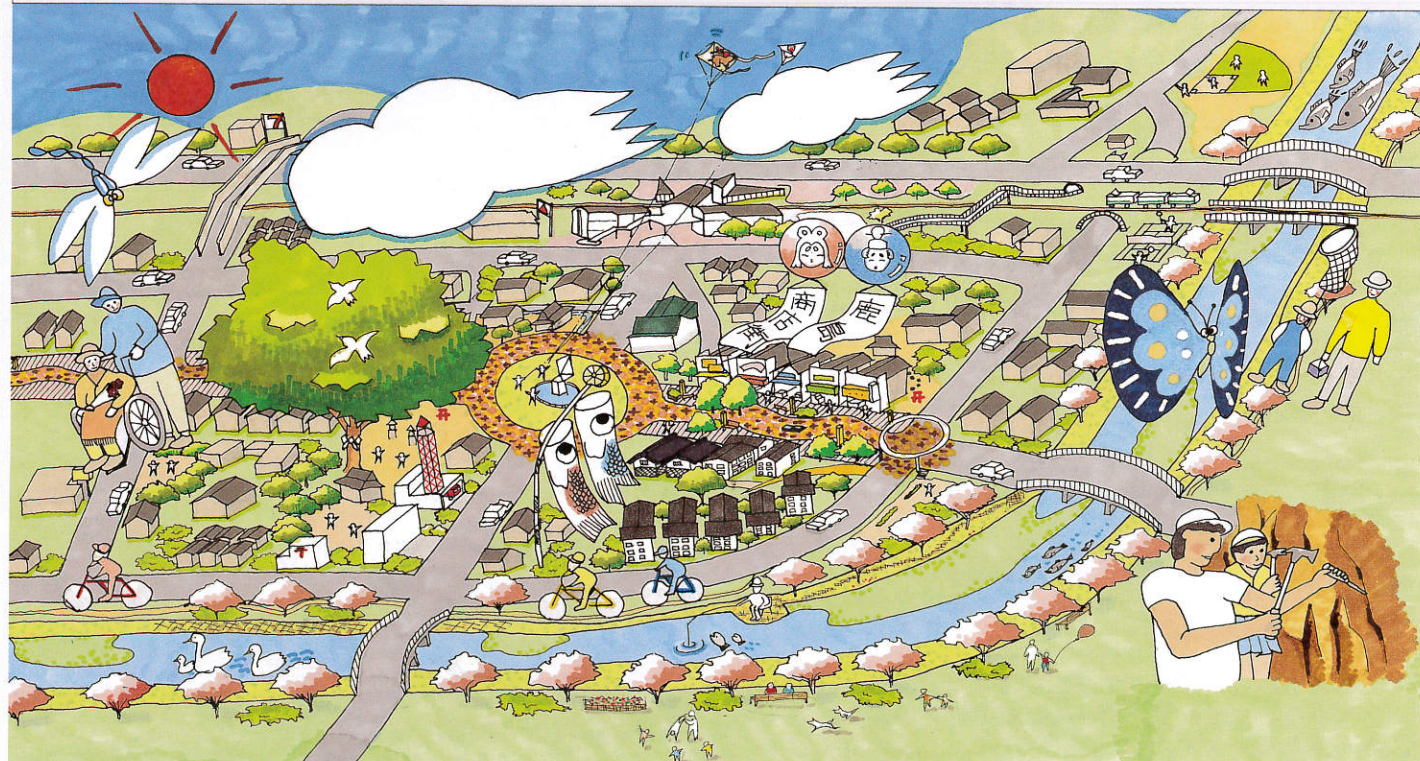
「商業・産業の活性化の方針」

- 既存商店街に新たな賑わいを導入する拠点として、数軒の商店による商業集積（ミニマーケット）をつくる。

- 新たな商業展開として、6号線利用者に対し、商業活動を行うと共に既存商店街に引き込む施設を6号線と常磐線の間を整備する。

「文化と街並みの方針」

- まちの新たな顔として駅及び駅前交差点部分を文化や賑わい、緑といったキーワードを基に整備する。
- まちの旧来の顔である、御子神社と造り酒屋を公園や住宅と連携させ、身近な文化資源として、活用・保存する。



まちづくりイメージ図

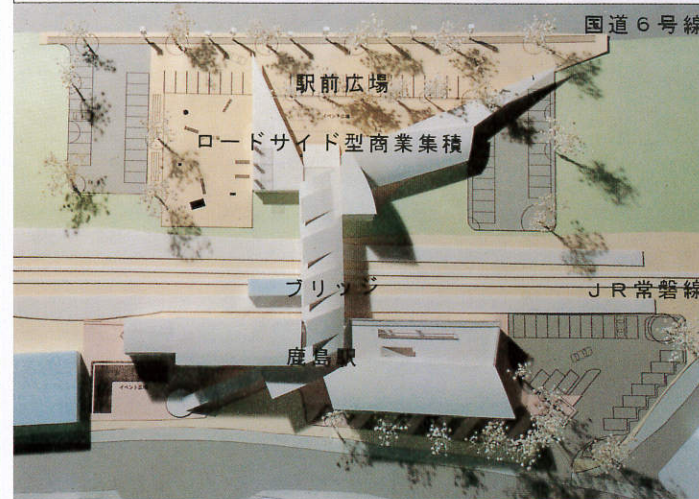
モデルプランによる活性化への具体的提案

～力を合わせて具体的な試みを実現しましょう。～

委員会では、提言に加え活性化への具体的提案としてモデルプランを作成し、町に提案しました。その内容は「鹿島駅の活性化計画」や「町営住宅の整備」など様々です。モデルプランの概要を下記に示します。

鹿島駅の活性化とロードサイド型商業集積整備計画

- 新しい鹿島駅は「町立図書館」「ヤングプラザ」「滞在型ホテル」を一体的に整備する。
- 国道6号線沿いには、新たに東口駅前広場を設ける。また、将来の橋上化にも対応可能な施設構成とする。

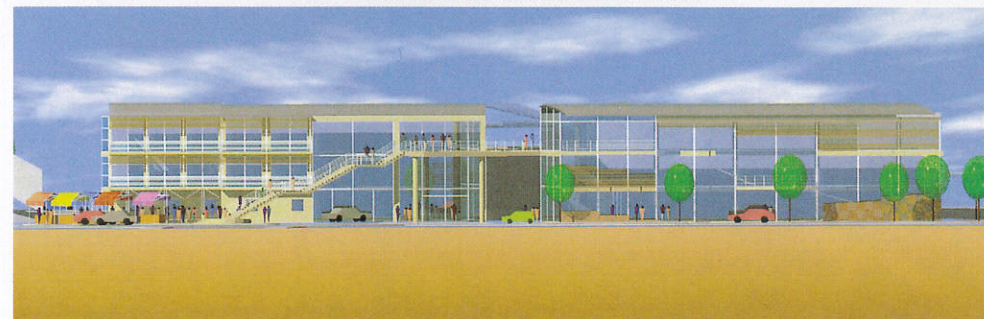


市街地と国道6号線の連携を図る施設配置

- ロードサイド型商業集積には、「イベント広場」を中心に「鮮魚センター」「バイクショップ」を設ける。
- 国道6号線の通行者を既存市街地に引き込み、市街地活性化の一助とするためにブリッジ（屋根付自由通路）を設ける。



賑わいを演出する駅前広場と駅



賑わいや明かりがあふれるファサード構成



6号線に鹿島をアピールする新拠点

広場を持つロータリーの整備計画

- 中心市街地のシンボルとして、広場を持つロータリーを設ける。この広場にはまちを流れる用水が池をつくり、モニュメントが置かれる。

- 日頃は子供達の水遊びや老人の憩いの場として、休日にはコンサートやバーゲンが行われる。
- ロータリー型交差点は、信号がなく、ゆっくりと車が一方に走り、子供達や老人等の歩行者にとっても安心です。



用水とモニュメントを持つ集いの広場



まちの新たなシンボルとなる広場を持つロータリー

注）これらのモデルプランは、あくまで委員会からの提案であり、町の整備計画ではありません。

ミニマーケットを含む町営住宅整備計画

- 古いまちなみを伝える蔵をギャラリー等の「資料館」として活用しながらシンボルロード側に「ミニマーケット」、真野川を望む南側に「町営住宅」を一体的に整備する。
- 「ミニマーケット」は、核店舗としてまちを象徴する老舗や町

内に多数ある菓子店、新規導入店舗を複合し、まちの不足業種（特にこだわりのある店）の5～7軒で構成する。

- 老朽化した町営住宅の建て替えを行い、中心市街地の人口増加と鹿島らしさあふれる快適な住環境づくりを行う。



町屋の雰囲気と古いまちなみを融合させた生活環境の創出



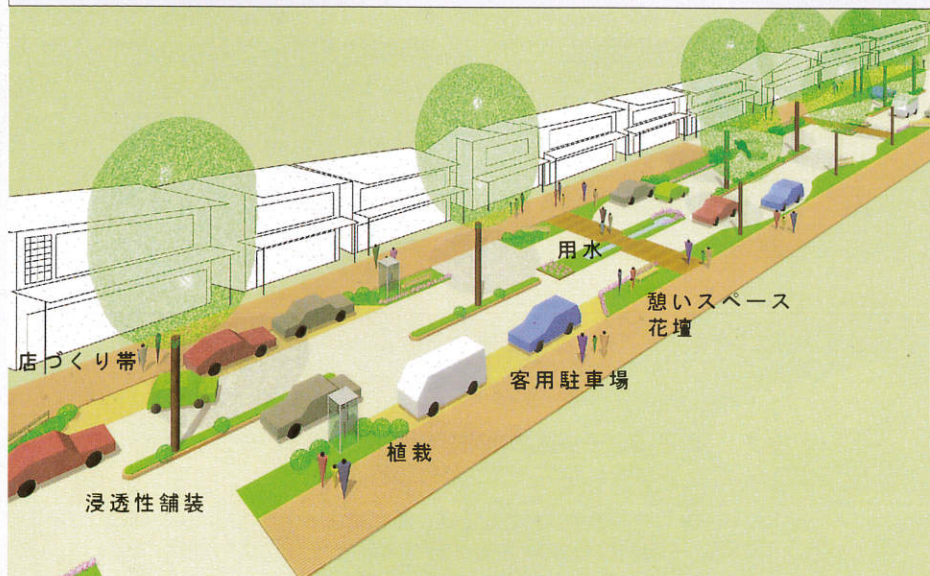
街区を中心となるみどり豊かな中庭

シンボルロード整備計画

- 車の通過交通を避け、バリアフリーの考え方も取り入れた、コミュニティー道路（歩車共存の街路）を創出する。
- 街路樹等の植栽は道路に面する家々で選び、自由に使える花壇を設置し、個性の集合体としてまちの雰囲気を出す。
- 民地の歩道側1mを店づくり帯として活用する。

- かつて通りの中央を流れ、現在は暗渠となっている「用水路」を復活させ、水のある潤いの道とする。

- 歩道にはベンチとテーブルを多数設置し休めるまち、憩えるまちとする。またイベント開催時のテント設営や屋台設置に必要な設備も適宜配置する。



シンボルロード構成イメージ



模型によるシンボルロードの検討

まちづくりのお手伝いをつうじて

町民の皆さんが自らまちのことを考え、まちづくりの主体となっていこうとする試みは、非常に素晴らしいことです。初めは半信半疑で参加した委員の方も、だんだん本音で議論し、考え、最後には立派な提言と具体的な提案をされ、「今後も続けていきたい」といわれたのがお手伝いする側としては嬉しいことでした。参加する人たちが芋蔓式に増え、新たな議論が芽生え、次は一つでも具体的な試みが実現することを望んでいます。そして子供たちが描いたような、「夢のまちかしま」をつくるよう頑張ってください。応援します。

（株）中村勉総合計画事務所 中村 勉

平成10年3月 発行

発行：鹿島町まちづくり委員会

鹿島町都市計画課

編集・デザイン：（株）中村勉総合計画事務所

協力：（株）福建コンサルタント

（有）チームネット

〒979-2334

福島県相馬郡鹿島町西町1-1

〒106-0044

東京都港区東麻布3-2-1 狸穴7ビル3F

〒975-0038

福島県原町市日の出町528

〒165-0024

東京都中野区松が丘2-10-15 トリニティ105

TEL (0244) 46-2111(代)

FAX (0244) 46-5684

TEL (03) 3589-0085

FAX (03) 3589-0086

TEL (0244) 24-1311

FAX (0244) 24-4985

TEL (03) 3386-8381

FAX (03) 3386-8382

